

# 半田赤レンガ倶楽部

半田赤レンガ倶楽部 “ 発会 ”

創刊準備号

平成10年3月25日発行  
編集発行/半田赤レンガ倶楽部

全国より熱い

お祝いのメッセージ届く

西村幸夫様

東京大学工学部都市工学科教授

歴史的な建物や環境を生かしたまちづくりの専門家。  
日本各地のまちづくりを積極的に支援してくれる活動的な先生。  
著書に「町並みまちづくり物語」古今書院。他多数。

メッセージ

妻木頼黄は日本橋の設計者です。震災にも耐えましたが、今は首都高がおおいかぶさっています。しかし、壊されなかったから、私たちはまだ夢を見ることができます。青空のもとに日本橋を、いつの日か。

旧カプトビール工場の赤レンガも壊されなかったから夢を見させてくれるに違いありません。ずっと永く続く夢を祈っています。

水野信太郎様

金沢学院大学助教授

赤煉瓦博士と皆から呼ばれる煉瓦建築研究の日本の第一人者。半田の旧カプトビール工場の学術的な価値をいち早く示していただき、これまでにシンポジウムなどにも参加していただいている。

メッセージ

旧カプトビール工場を生まれて初めて目にしたのは、おそらく昭和54年の夏頃であったろうか。半田市内在勤の知人をたずねていく途中の車中から見た。その時には恐ろしく振るい大きな赤煉瓦むき出しの工場だと思った。正直に言うと、誠に小汚い建物であるが全国に数多く見られる紡績工場のようなワンパターンの建築物が幾つも繰り返して並んでいる工場とは違うなと思った。

その旧カプトビールと私の縁が深まったのは、壊されるらしいといううわさを聞いてからである。平成6年9月末日をもって、日本食品化工株式会社工場の閉鎖するというのだ。この時には煉瓦建築の専門家と目されていた私は急ぎ友人たちを組織して、最期の学術調査を実施しなければと判断した。最期のつもりであった実測調査は、建物が残されることになったため最終回にはならなかったが、実は最初の学術調査であった。

いま私は愛知県に本拠をおいていないので半田市役所からも半田市民からも何ら正式な協力は依頼されていない。だが平成6年の窮状に際し、いち早く駆けつけてくれた友人たちの無償の行為を忘れてはならないと思う。地元の方々による今後の活動が、友人たちの見せた献身に報いる結果となることを心より期待している

会長より皆様へ

歴史を今に伝える赤レンガの建物を楽し、我がまち半田を愛する方々どうか私たちの倶楽部に入会して、ともに魅力ある個性豊かなまちづくりを目指しましょう。会員目標2,000人!!どうぞよろしく願いいたします。

半田赤レンガ倶楽部会長 長谷川寛子

内藤恒平様

赤煉瓦ネットワークの中心メンバー  
横浜在住で横浜の煉瓦倉庫の保存に始まり、全国各地の赤煉瓦を愛する全国の人々のネットワークをつくる大活動家。仕事では市民参加のまちづくりをリードするエネルギー豊かな横浜市職員

馬場英男様

赤煉瓦ネットワーク中心メンバー  
舞鶴市役所下水道建設課長。「れんが探偵団」から「赤煉瓦倶楽部・舞鶴」生みの親であり、育ての親。  
大ボス。毎年、赤煉瓦倉庫群の中でジャズフェスティバルを開催し、全国に名を馳せる名物男。

赤煉瓦ネットワーク事務局一同様（横浜市）

赤煉瓦きりこみ隊一同様（横浜市）

川崎煉瓦のこし隊一同様（川崎市）

メッセージ

半田赤レンガ倶楽部の発会の知らせを受けて、「赤煉瓦ネットワーク事務局」・「赤煉瓦きりこみ隊」・「川崎煉瓦のこし隊」が多いに沸いています。

「ワッー」 「ブラボー」 「素敵！」

このどよめきが半田に届いているでしょうか。

「半田赤レンガ倶楽部」を中心に半田市民の力で、歴史と伝統ある個性あるまちづくりを進めていただけるよう切望しています。また、オス（お酢?）のまち半田ですが、女性の方々にもたくさん参加していただくとともに、「赤煉瓦ネットワーク」にもぜひ参加していただけるようこちらも切望しています。



J Cデーにて会員募集（平成9年9月14日）

今にも雨が降ってきそうな空もようの中、半田青年会議所主催による平成9年度J Cデーが赤レンガ広場にて開催されました。前日より建築士会のメンバーを中心に「半田赤レンガ倶楽部」のブースが準備され、ここで会員の募集とパネルの展示をおこないました。

全愛知県赤煉瓦工業共同組合の榎原さん、長谷さんのご厚意により煉瓦500丁を頂戴し、半田赤レンガ倶楽部に入会してくださった市民の皆さんに会員証がわりに1丁づつ持って行っていただきました。その甲斐あって当日100人近い市民の方々に入会していただくことができました。

ありがとうございました。